

## 令和2年第1回智頭警察署協議会開催状況

|   |                            |  |
|---|----------------------------|--|
| 開催日時  | 令和2年2月20日(木)午後1時から午後5時5分まで |  |
| 開催場所  | 生活安全部地域課航空隊及び智頭警察署         |  |
| 出席者   | 委員<br>(定数5人)               | 寺崎会長、平井委員、九鬼委員、小谷委員、小林委員<br>以上5人                         |
|   | 警察                         | 山本署長、原田管理官、福田会計課長、吉田生活安全刑事課長<br>野間交通課長、警備課員、地域課員<br>以上7人 |
| 議 事 概 要   |                            |  |
| <p><b>1 協議会の開催状況</b></p> <p>(1) <b>生活安全部地域課航空隊施設見学及び航空機での上空視察</b><br/>委員は、生活安全部地域課航空隊の施設見学及び航空機「さきゅう号」に搭乗し、智頭警察署管内を上空から視察した。</p> <p>(2) <b>業務推進状況等説明</b><br/>担当課長が、令和元年中の管内治安概況及び業務推進状況を説明した後、管理官が「令和2年鳥取県警察運営指針及び重点目標」、会計課長が「昨年の遺失物・拾得物取扱い状況」について報告した。<br/>協議では、令和元年中の智頭警察署協議会の振り返りと令和2年の方向性について議論するとともに、最近急速に進化している「安全運転サポート車の普及状況」について交通課長が説明し、意見を求めた。</p> <p><b>2 施設見学及び航空機による管内上空視察の状況</b></p> <p>(1) <b>担当者説明</b><br/>航空隊長より航空隊の活動概要、航空隊の沿革及び航空機「さきゅう号」の性能について説明を受けた後、航空機搭乗に当たって諸注意を受けた。<br/>委員： 航空隊は何人で活動しているのか。<br/>警察： 隊員数の変遷はあるものの、現在は6人体制である。<br/>委員： パイロットは何人いるのか。<br/>警察： 現在は2人で運用している。航空機の運用に必要な不可欠な整備士も配置されており、安全飛行に十分配慮している。</p> <p>(2) <b>上空視察</b><br/>智頭警察署管内上空から、管内の地形、警察施設（警察署及び駐在所）、昨年管内で発生した各種事件・事故現場の視察を行った。</p> <p><b>3 会議の開催状況</b></p> <p>(1) <b>会長挨拶</b><br/>上空からの管内視察を行い、普段の目線と違い、見えないものを見ることができた。管内は広いようで狭く感じるとともに、狭隘な溪谷のなかに集落が点々としている複雑な地形のなかで、我々住民の安全、安心を日々守っていただき、頭の下がる思いである。<br/>今後も智頭警察署の業務運営に地域住民の意見を反映していただくため、尽力していきたいと考えている。</p> <p>(2) <b>署長挨拶</b><br/>昨年の治安情勢は、県下で交通死亡事故により31人が亡くなられ、当署管内でも2件2人の交通死亡事故が発生した。特殊詐欺については、県下で23件、約2,200万円の被害があったが、当署管内での発生は認められなかった。<br/>本年は、国家的行事となる「2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会」が開催されるほか、智頭町内での聖火リレーも予定されているところであり、このビッグイベントに対応するため、安全対策に万全を期すこととしている。また、現体制での智頭警察署協議会は、本日が最後の協議会となるので、昨年の協議会活動を振り返り、忌憚のない意見交換をお願いする。</p> <p>(3) <b>管内治安概況説明</b><br/>担当者から、令和元年中における管内の犯罪発生状況、交通事故発生状況及び業務推進状況について説明があった。</p> <p>(4) <b>報告事項</b><br/>担当者から、令和2年鳥取県警察運営指針及び重点目標、昨年の遺失物・拾得物取扱い状況について報告があった。</p> <p>(5) <b>協議事項</b></p> |                            |  |

担当者による業務推進状況等の説明の後、次のとおり協議が行われた。

委員： 用瀬町鷹狩の変則交差点の進行方法について、駐在所勤務員から地域住民に、非常に分かりやすい資料を配布していただき、各方面から好評であった。

警察： 交通規制関係は、住民の生活と密着している部分が多いことから、今後も住民の意見に対し、迅速に対応していく。

委員： 警察の地道な活動を垣間見るなかで、警察への親近感、信頼感に繋がっている。このような活動を地域の方に伝えることが我々の使命なのかと思う。住民と警察との橋渡しを行い、更なる信頼関係に繋げ、より親しく身近な存在になるような方法を考えていきたい。

警察： 今回、航空機で視察をしていただいたが、上空から管内の道路や地形等を見ていただき、危険箇所、犯罪の起きやすい場所等、我々の気付かないことを協議会委員として、助言、提言していただきたい。

委員： セーフティサポートカー補助金制度について、住民周知が不十分のように思う。

警察： 高齢ドライバーによるブレーキとアクセル踏み間違いの交通事故が全国各地で発生しているところ、警察としても、テレビ、新聞などの広報媒体でアピールしているものの、高齢者の方々に十分届いていないと感じている。対策として、駐在所員が高齢者の集まる会合に出向き、交通安全指導のなかで助成金制度についても説明している。

#### 4 連絡事項等

次回協議会の開催時期及び協議事項は、各委員からの意見、要望等を踏まえ検討する。